

★ ハイブリッド事例 ★

対面授業とオンライン授業の併用 およびグループワークの改善事例



千葉工業大学 社会システム科学部
プロジェクトマネジメント学科
准教授 田隈 広紀 (たくま ひろのり)

1. 感染症予防の取り組み

・・・検温・消毒・飛沫対策 etc.



2. 授業環境の調整と改善

1) 対応手順の紹介



学科へのヒヤリング

- ・ 開講形態の検討
- ・ 時間割の組換え

オンライン環境整備
ガイドライン策定
教室の割当て



- ・ WebツールのQ&A
- ・ 授業運営のTips
- ・ トラブル事例報告

情報交換用の掲示板

プロジェクトマネジメント学科 1 年									
学年	学期	科目名	担当	曜日	時間	教室	備考	備考	備考
1	前期	プロジェクトマネジメントⅠ	山本	月	10:00-12:00	実習室			
1	前期	プロジェクトマネジメントⅡ	山本	火	10:00-12:00	実習室			
1	前期	プロジェクトマネジメントⅢ	山本	水	10:00-12:00	実習室			
1	前期	プロジェクトマネジメントⅣ	山本	木	10:00-12:00	実習室			
1	前期	プロジェクトマネジメントⅤ	山本	金	10:00-12:00	実習室			
1	後期	プロジェクトマネジメントⅥ	山本	月	10:00-12:00	実習室			
1	後期	プロジェクトマネジメントⅦ	山本	火	10:00-12:00	実習室			
1	後期	プロジェクトマネジメントⅧ	山本	水	10:00-12:00	実習室			
1	後期	プロジェクトマネジメントⅧ	山本	木	10:00-12:00	実習室			
1	後期	プロジェクトマネジメントⅧ	山本	金	10:00-12:00	実習室			

授業開講形態の通知 (ヒヤリングから1.5か月後)

オンライン



ハイブリッド



対面 (演習)



2. 授業環境の調整と改善

2) ハイブリッド方式の補足説明

実施パターン①：

対面講義の同時配信

…どうしても通学できない
学生がオンラインで参加



実施パターン②：

対面・オンライン併用型

…コマの内容に適した手段
で開講（主に演習回は対面）

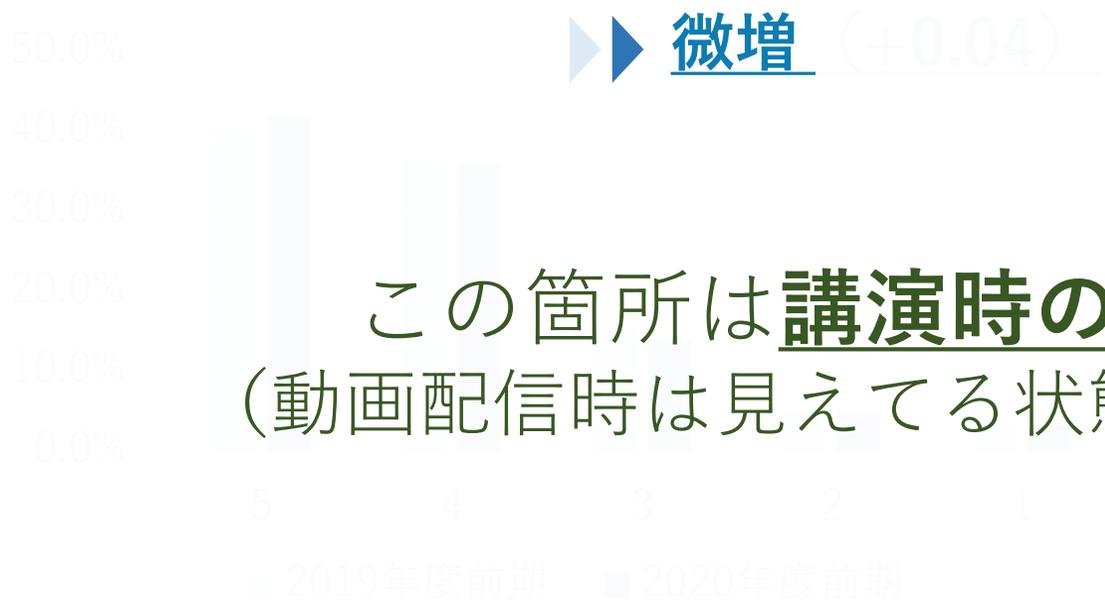
3. スケジュール

No	開講日	講義テーマ	パターン	備考
1		ガイダンス及び基礎知識の講義	座学	
2	オンデマンド	知識編：PMの知識体系を使いこなせ	座学	・6月19日までの好きな日時に受講 ・講義は動画聴講で代替 ・出欠は小テスト提出有無で判断 ・6月20日以降は小テストを提出 できなくなるので注意
3	6月19日までに manabaで受講	知識編：要求と数値を軸に意思決定せよ	座学	
4	期間延長する 可能性あり	知識編：執務環境を整えよ	座学	
5		実践編：PMの導入効果を体感せよ	座学	
6	6月26日	開発システムの要求定義を完遂せよ	Gr.7-7	10点分
7	7月3日	前半講義の振り返りと中間テスト	テスト	35点／範囲は1～4コマ（5は期末）
8	7月10日	実践編：大手SIerのPM改善策を立案せよ	Gr.7-7	次回発表の準備を実施
9	7月17日	実践編：PMOをコンサルせよ	Gr.7-7	10点分／PPTでの発表を実施
10	7月24日	失敗PJのリバイバルプランを立案せよ	Gr.7-7	10点分
11	7月31日	後半の講義内容の振り返りと期末テスト	テスト	35点／範囲は5・8・9コマ
12	8月7日	講義の発展的総括	座学	追試が必要な場合はこの日に実施

2. 授業環境の調整と改善

3) 対応結果：去年度（対面授業）との比較

アンケート結果：総合満足度



アンケート結果：理解度



この箇所は講演時のみ表示させていただきます
(動画配信時は見えてる状態の時間をカットして下さい)

(参考) 1科目あたりの週の学習時間は約30分向上

…学習時間は伸び、満足度は維持できた。ただし「凄く理解できた」層が減った。

対面にあってオンラインにはない、「何らかの欠落」を理解すべき 5

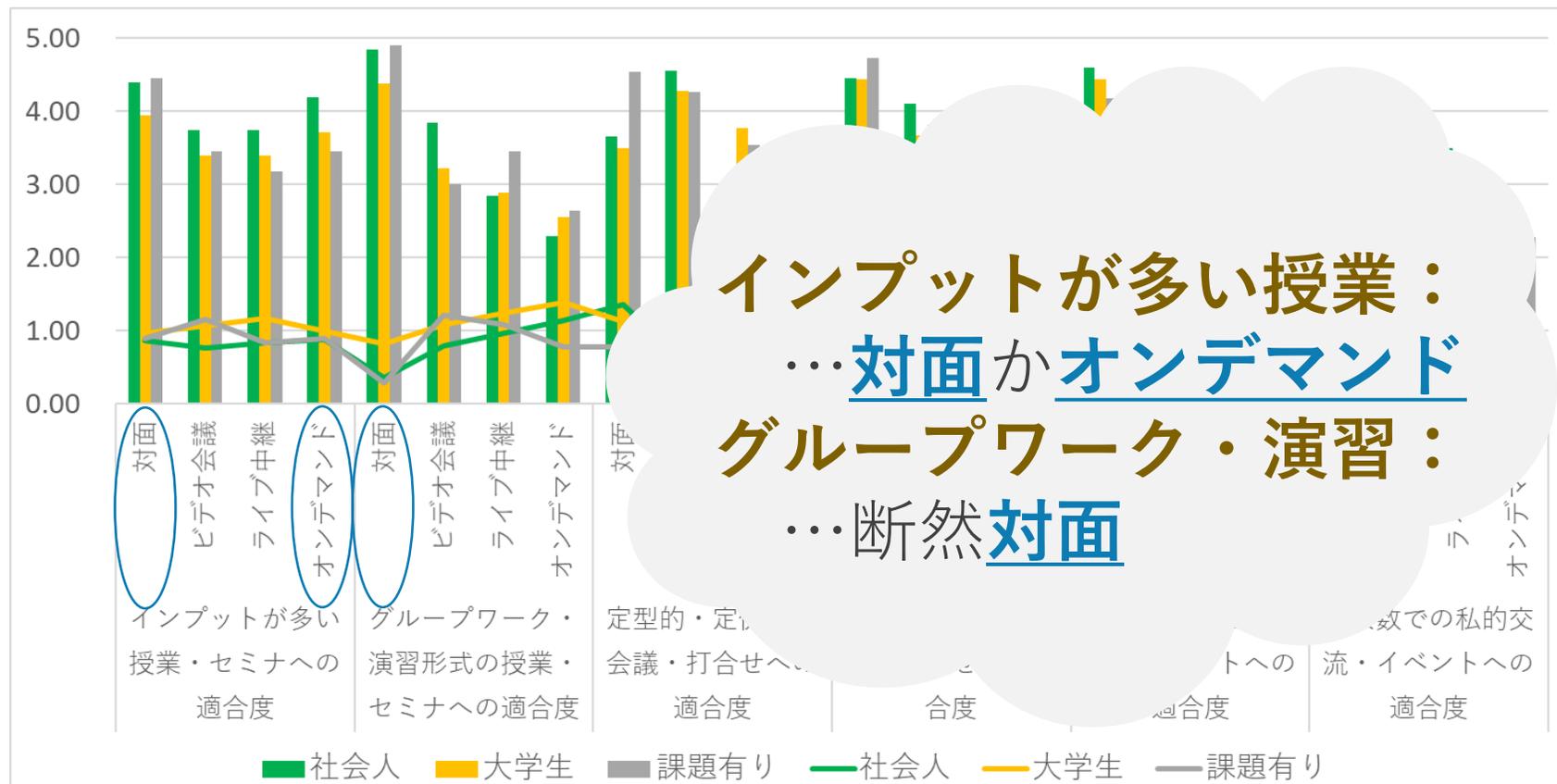
3. 対面・オンライン授業の意識調査

1) 調査方法と収集結果

- ① Webフォームによるアンケートの配布と回収
- ② 2020年8月2日～4日の3日間で49件回収
- ③ 調査内容:
 - ・ 回答者の属性(所属・ICTスキル・ネット環境の充実度)
 - ・ 対面・ビデオ会議・ライブ配信・オンデマンドの適用シーン別の適性度(5段階評価)
 - ・ 対面vsビデオ会議=場の共有、ライブ配信vsオンデマンド=時間の共有で何が優れているか(7つの視点・5段階)
 - ・ 自由回答(主にオンラインコミュニケーションの利点・欠点について)

3. 対面・オンライン授業の意識調査

2) 各種コミュニケーション手段の適性度



インプットが多い授業：
…対面かオンデマンド
グループワーク・演習：
…断然対面

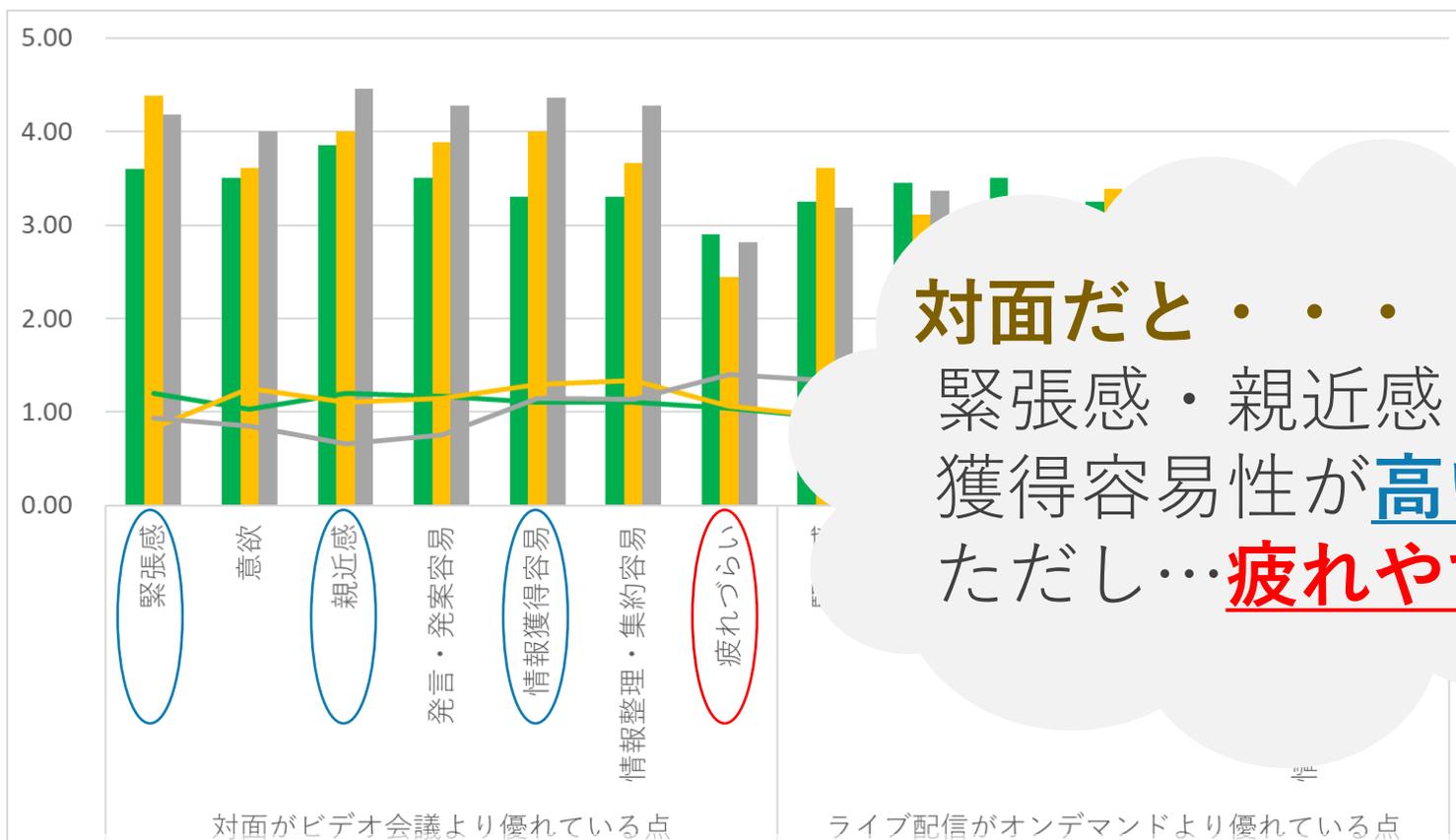
回収数
社会人：20件
大学生：18件
課題有り：10件

凡例の補足
棒線：平均値
折線：標準偏差

座学科目をオンデマンドにしてコマ・教室の余剰を作り、
演習・PBLを対面～ハイブリッドで開講すると良さそう

3. 対面・オンライン授業の意識調査

3) 対面の方が優れている要素



対面だと・・・
緊張感・親近感・情報
獲得容易性が**高い**
ただし…**疲れやすい**

回収数
社会人：20件
大学生：18件
課題有り：10件

凡例の補足
棒線：平均値
折線：標準偏差

グループワークではキックオフ・成果発表・重要なコマは対面
他の回はビデオ会議でも良さそう (疲れづらい&感染リスク低減)

4. おわりに

1) 授業環境整備への提言

- ・ まず情報網を整備すべき
- ・ できることを早く施行する
- ・ 継続的に評価・分析・改善



2) グループワークへの提言

- ・ できればハイブリッドが推奨
- ・ 難しいなら緊張感・親近感・情報提供をなるべく強化



例：産学連携、アイスブレイク、LMSを活用したPBLの実施 9